

<p>支援活動の紹介</p>	<p>ティーンエイジャーと教師が共に進める「生と性・AIDS教育」                  ティーンズ作戦Ⅲ：10 第の若者が企画して予防・啓発活動を行う                  ≪学びの継続：中学生・高校生・看護学生・学生などを対象≫                  ① 中核拠点病院での学習                  ② LSA 夏合宿（2年目）：いのち、生と性・AIDS教育                  ≪世界エイズデーイベント（ハートフルエイズデー）≫                  ≪ハートフルエイズデー ポスターコンクール≫</p>
<p>今年度の実績</p>	<p>① 中核拠点病院での学習                  LSA ティーンズグループがテーマを決めて東北ブロックエイズ中核拠点病院：独立法人 国立病院機構 仙台医療センターを訪ね、インタビューや見学を通して学びを深めた。                  ② LSA 夏合宿（2年目）：いのち、生と性・AIDS教育                  1年目の合宿経験者が核となり、新規メンバーへの導入、伝達をした。（ピア・リーダーの育成ができた。）                  ③ オリジナル予防啓発活動の開発                  上記の①、②の活動を通して学んだ事を、ティーンズがどのように展開して、社会に向けて伝えていくか十分に話し合い、実施した。                  ≪世界エイズデーイベント（ハートフルエイズデー）≫を実施した。                  ≪ハートフルエイズデー ポスターコンクール≫を岩手県保健福祉部が共催し、岩手県全県下での募集、カレンダー作成、「岩手県知事賞」の設定、等の発展を見せ、実施出来た。</p>
<p>次年度の活動計画</p>	<p>・今年度は、助成額は減ったため、持ち出しが多くなった。しかし、岩手県で学んでいる若者が、日本全国レベルでの学びや貢献となっているかを確認し、大きな視野で学ぶ視点で、仙台に実施研修ができた。仙台では病院長先生を初め歓迎してくださり、東北連携の足がかりとなった。                  ・また世界エイズデーイベントの際には、釧路労災病院の宮城島直人先生に講演をお願いし、北海道との交流の足がかりもできた。                  ・LSAの活動をしていた高校生が卒業し、大学生、専門学生になり共に活動をする、いわゆる「屋根瓦方式」ができるようになってきた。世代交流、地域交流、支援の輪が広がってきている。                  ・単なる、一団体の活動から、岩手県の理解を得られるような、広報・交渉に発展している。</p>
<p>支援活動責任者からのコメント</p>	<p>東日本大震災の当事者として、強い悲しみと悼みを有しています。今後、日本国と日本社会は変化を余儀なくされ、当然教育の在り方も大きく変化していくことでしょう。これまでの物質至上主義のような、豊かさ故の問題と違った問題に直面する「今」だからこそ、若者達が自分と皆を大切にしながら希望を持ち、前に進んで生きて行く事が求められます。LSAが伝えて来た事が今まさに、生きて来ます。『生と性の自己決定能力』（知恵と工夫と希望のある、より善きものを選び行動する能力…自己変容の能力）をつけて行きたいと思っています。そして何より緊急事態に備えた、安全な対策も研究して臨みたいと考えています。（H23/4/24 現在）</p>